

コロナ禍。支援団体はどう向き合ったか。

新型コロナウイルス感染症により、多くの「たより場」は活動の制限を余儀なくされました。一方で、浮き彫りになった問題や新たな課題も多く見えてきました。コロナ禍とどう向き合い、活動を行ったか。3団体にインタビューしました。

Interview 01

せんだいこども食堂



フードパントリーで配布したさまざまな食料

せんだいこども食堂



共同代表 **門間尚子**さん

2000年から複数のNPO/NGOで子どもと女性に寄り添う活動を行う。2016年2月に「せんだいこども食堂」を立ち上げ、仙台市内3ヶ所でこども食堂を展開。現在、県内のひとり親世帯へ食料提供を行っている。

お問合せ

Webサイト <https://www.sendaikodomosyokudo.com/>
Facebook <https://www.facebook.com/sendaikodomosyokudo/>
Eメール sendaikodomosyokudo2016@gmail.com

「休止」か「形を変えて継続」か。苦渋の選択に迫られました。

まずは、宮城県全体の子ども食堂の様子をお話します。現在、宮城県内に、子ども食堂は90か所ほどありますが、ほとんどの団体が活動を休止しました。フードパントリーやお弁当の配布等、形を変えて継続できたのは、約10団体ほどです。ご理解いただきたいのは、「休止」も「形を変えて継続」も、苦渋の選択だったということです。私たちは子どもたちを取り巻く大変な状況を間近で見ています。食堂がなくなると困るという声も聞こえるなか、子どもたちの命を守るため、どんな選択をすればいいのか。どの団体も悩んだと思います。

私たちが実施している「せんだいこども食堂」も、3月から中止していません。その代わりに、3月は、第2週から毎週フードパントリーを実施しました。たくさんの方から寄付やご支援をいただき、3t以上の食料を900人以上に配布しました。4月からは宅配に切り替え、月1回50世帯弱に食料を届けています。活動を切り替えるにあたり大変なのは、資金の調達です。食料の宅配にかかる費用は、子ども食堂1回にかかる費用の10倍にもなります。ボランティアや寄付だけでは賄いきれない部分を社会としてどうフォローしていくか、考える必要があると感じています。

Interview 02

一般社団法人ワカツク



学生等と連携して実施した学生向けの食料支援の様子

一般社団法人ワカツク



代表理事 **渡辺一馬**さん

1997年宮城大学へ第一期生として入学。2001年、卒業と同時に会社法人化し、代表に就任。震災後、一般社団法人ワカツクを立ち上げ、ボランティアやインターンのコーディネート事業を展開。

お問合せ

Webサイト <http://www.wakatsuku.jp/>
Eメール info@wakatsuku.jp

コロナ禍は、「学生の貧困」を浮き彫りにしました。

ワカツクでは「若者が成長できる東北」を目指し、ボランティアやインターンのコーディネートを行っています。学生や学生団体と一緒に活動することも多く、今回もすぐに「困った」という声が聞こえてきました。コロナ禍は、今まで隠れていた学生の貧困を浮き彫りにしたと捉えています。学生団体「宮城学生緊急アクション」が実施したアンケート調査では、宮城県内の大学生の5人に1人が退学を検討しているという結果が出ました。

現在大学に通っている若者の多くは、遊ぶお金を稼ぐたくてアルバイトをしているわけではなく、生活費を月8万円稼がなきゃ、4月に学費を払わないといけないから3月は集中的にアルバイトしなきゃ、という状況なのです。大学が義務教育ではないとはいえ、少し前まで高校生だった彼らに「自己責任でしょ」では、あまりに冷たいのではないのでしょうか。仙台は学生が多いまちです。若者が学び、成長し、社会に出るために、支えるシステムを考える必要があると思います。

現在、困りごとを抱えた大学生が相談に来られる場所を構築できないか検討を行っています。仙台の企業と協力しながら、学生を支えるシステムをつくりたいと考えています。

Interview 03

NPO法人アスイク



3月下旬から実施した食料宅配の様子

NPO法人アスイク



代表理事 **大橋雄介**さん

大学卒業後、民間企業を経て、2010年3月に独立。震災発生直後にアスイクを設立。NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター理事、全国子どもの貧困教育支援団体協議会理事等。

お問合せ

Webサイト <https://asuiku.org/>
Eメール admin@asuiku.org

問題が顕在化するまで時間差があるため、関心の継続が必要です。

行政と連携してひとり親世帯の子どもに対する学習支援などを行っています。県内36か所で学習支援プログラムを行っています。3月初旬から対面での活動は中止せざるを得ず、オンラインに切り替えました。また、3月下旬から私たちがかわつてきた約300世帯に対して食料の宅配支援を行っています。問題が長期化するなか、必要な支援を把握するためアンケートを実施しました。

オンライン学習支援は全国的に課題を耳にしますが、これまでできなかった子どもがオンラインでは参加したなどの例もあります。6月から対面の学習支援を再開しますが、オンラインも並行して実施します。また、学校や経済活動が再開したからと言って、家庭や子どもたちの問題が解決したわけではありません。今は一時的に資金的な支援も増えていますが、失業などした家庭は回復まで時間がかかるため、問題が顕在化するまで時間差があると考えています。継続的に支援と見守りが必要であると考えています。

「子どものたより場」づくりのための活動をしている団体への助成事業の募集を開始しました

活動団体の皆さまへ【助成事業募集】

- 【対象地域】 宮城県全域
- 【対象期間】 2020年8月1日～2021年1月末日までに実施、終了するもの
- 【活動対象】 主として、子どもの貧困や新型コロナウイルス等を含む困難な状況を改善するための、必要な取り組みに資金支援を行い状況の改善を図る。
- 【助成金額】 区分1：上限20万円 区分2：上限50万円
- 【申請締切】 2020年7月10日(金) (必着)

詳細は以下のホームページをご覧ください
<http://kodomonotayoriba.kahoku.co.jp/>

問い合わせ／公益財団法人 地域創造基金さなぶり TEL:022-748-7283

子どものたより場応援基金

子どものたより場の支援にご協力をお願いします

振込先

七十七銀行・本店営業部 普通・5026553 口座名：子どものたより場応援プロジェクト 公益財団法人 地域創造基金さなぶり	ゆうちょ銀行・二二九店 当座預金：0121920 郵便振替口座：02290-0-121920 共通口座名：子どものたより場応援プロジェクト
--	--

※いただいたご寄付は、子どもの貧困に関わる活動をはじめとした、たより場の支援に活用させていただきます(事務費15%を頂戴します)

基金に関するお問い合わせ／公益財団法人 地域創造基金さなぶり

住所：宮城県仙台市青葉区大町1-2-23桜大町ビル602

担当：鈴木(月～金：9時30分～17時) TEL:022-748-7283 E-mail:kifu@sanaburifund.org

プロジェクトへの企業協賛のご案内

子どものたより場応援プロジェクトを支えてくれる企業協賛も募集中です。詳しくは右記までお問い合わせください。

お問い合わせ／河北新報社営業局営業部
TEL:022-211-1318(平日10時～17時)

子どものたより場

検索

<http://kodomonotayoriba.kahoku.co.jp/>

Facebookページも開設 最新情報を更新していきます!

問い合わせ／河北新報社営業局営業部 TEL:022-211-1318(平日10時～17時)

主催

河北新報社

協賛

KIRIN

大和証券

東北福祉大学

宮城県

公益財団法人 地域創造基金さなぶり

FUJIFILM

ふたやみ

point staff

COOP

株式会社 ワコーファースト商事

特別協賛

MS ケースデンキグループ

デココード

基金への寄付

108クラブ

太子食品

立命館大学



子どものたより場
応援プロジェクト